

第48回 古地図企画展示

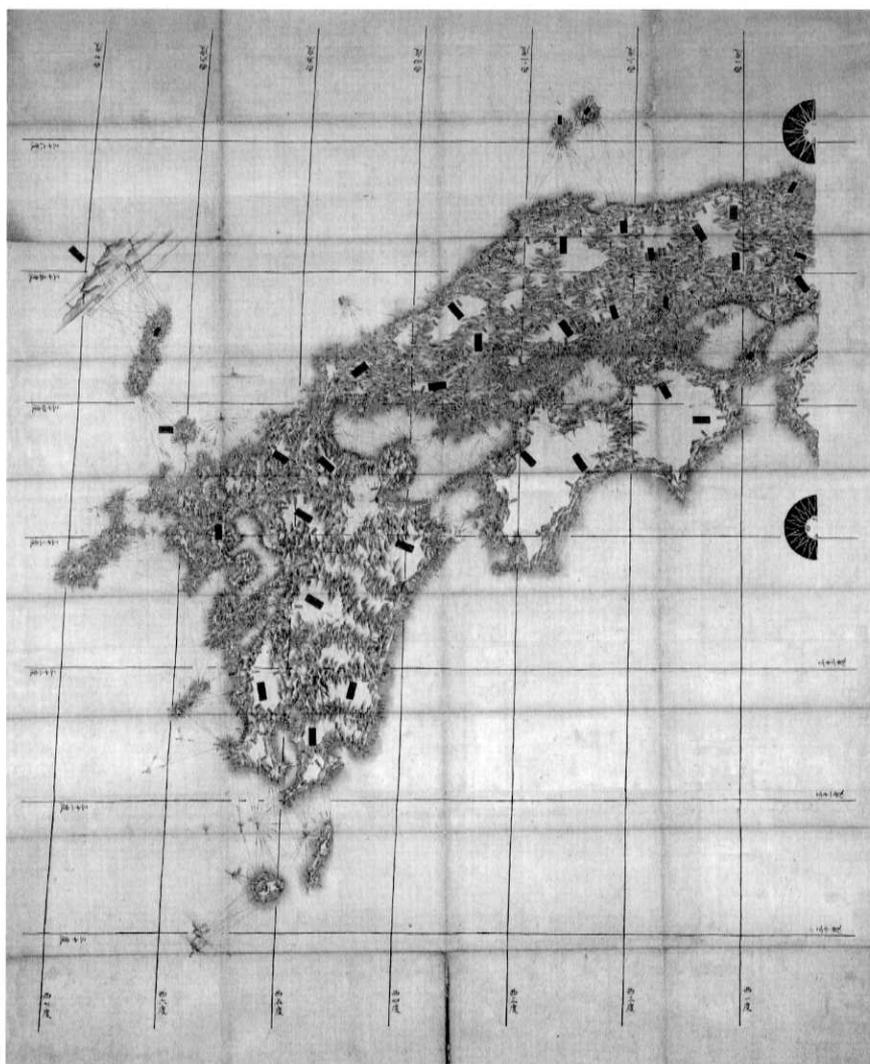
伊能図の世界

— 館蔵品一挙大公開 —

平成26年(2014)8月23日[土]～平成26年9月15日[月・祝]

於 三階 特別展示室 1

— 出品目録 —



No.11 伊能小図(西日本)

毎回テーマを決めて、古地図の企画展を開催していますが、アンケートなどには、伊能図の展示会をして欲しいと書かれることが多いのが現状です。そう言ってもらえるのは、当館に伊能図の優品が多いことを知っておられる方が少なくないことの証でもあり、担当者としては嬉しいことなのですが……。かつて、アメリカ議会図書館から里帰りした大図のお披露目をした特別展「伊能忠敬の日本地図展」は、平成16年（2004）4月17日から5月23日でした。とするならば、今年（平成26年）はそれから10年の歳月が……。企画展となると、昭和の時代（昭和61年9月20日～11月3日）の「伊能忠敬展」！

古地図名品展や日本地図展などでは必ず、伊能図を展示していますが、前述した要望ができるのは、当然と言えば当然のことかもしれません。そこで、今回は館蔵の伊能図を一挙大公開します。江戸時代の地図学史上での金字塔ともされる「伊能図」を、伊能ファンの方も古地図ファンの方も心ゆくまでお楽しみください。

《出品目録》

I. 伊能図以前の日本図

江戸幕府は、数回にわたり国ごとに絵図（国絵図）を作り、それをもとに日本総図を作製しています。また、民間（書肆）でも日本図が作製され刊行されていました。日本の姿は、巷に流布していたのです。

No.	資料名	作者など	時代	版種	寸法(cm)	備考
1.	扶桑国都水陸地理図		江戸時代初期	手書手彩	131.4×182.4	
	江戸幕府は日本総図を複数回作製しましたが、本図はその最初の日本図を写したものとされています。					
2.	大日本国大絵図	石川流宣	正徳2年（1712）	木版手彩	89.9×170.4	南波
	江戸時代中期を代表する刊行日本図。石川流宣は浮世絵師。					
3.	改正日本輿地路程全図	長久保赤水	安永8年（1779）	木版手彩	83.2×134.3	秋岡
	江戸時代後期を代表する刊行日本図。長久保赤水是水戸藩の儒者。					

II. 伊能図の世界

伊能忠敬の測量は、寛政12年（1800）にはじまり文化13年（1816）まで、あしかけ17年に及びます。日本地図として作製され、幕府に上呈されたのは文政4年（1821）のことでした。ただ、それ以前にも測量成果に基づいて各種の地図が作製されています。

No.	資料名	作者など	時代	版種	寸法(cm)	備考
4.	沿海地図	伊能忠敬	文化元年（1804）	手書手彩	215.1×254.4	南波
	北海道南岸の根室から名古屋までを描いた東日本図。東国測量の成果を反映させた図。					
5.	日本輿地図藁	伊能忠敬	文化6年（1809）	手書手彩	120.5×204.0	南波
	忠敬が測量の半ばに、幕府の求めに応じ作成した日本図。未測量の九州は不正確。					
6.	筑前豊前両国郡図	伊能忠敬	文化年間	手書手彩	96.8×148.3	南波
	各地方で伊能は地図を作製したが、九州の測量は文化8年（1811）から始まった。					

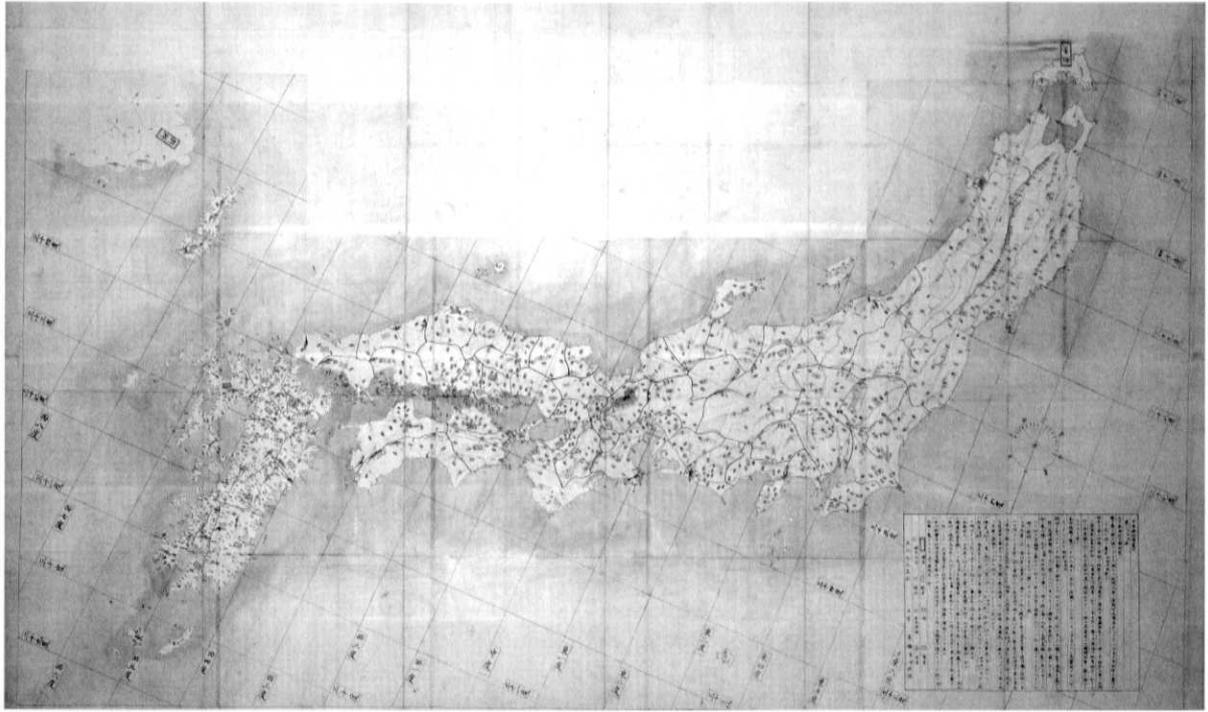
7.	日本辺界略図	高橋景保	文化6年(1809)	銅版手彩	23.3×106.0	南波
	日本列島をアジアの中に位置づけたもの。北海道は伊能忠敬と間宮林蔵の探検成果を採り入れている。					
8.	新訂万国全図	高橋景保	文化7年(1810)	銅版手彩	114.8×197.7	南波
	英国の海図をもとに、天文方高橋景保らが3年の歳月をかけて作製した世界図。					
9.	江戸実測図(南半分)	伊能忠敬	文化14年(1817)	手書手彩	197.6×314.0	
	文化13年(1816)閏8月から10月までに行った江戸の測量図。縮尺は1/6,000で、南北2部からなる。					
10.	伊能小図(蝦夷図)	伊能忠敬	文政4年(1821)	手書手彩	161.6×181.1	南波
11.	伊能小図(西日本図)	伊能忠敬	文政4年(1821)	手書手彩	203.5×162.1	南波
	伊能小図は、432,000分の1の縮尺で日本を3枚1組で描く。					
12.	日本国地理測量之図	伊能忠敬	江戸時代後期	手書手彩	390.0×425.0	
	伊能図を編集し、日本全体図としたもの。図中には忠敬の測量成果を数多く表示している。					
13.	近江図及附近絵図		江戸時代後期	手書手彩	64.5×137.5	
	忠敬が作製した「琵琶湖図」(1/108,000)の写し。					

Ⅲ. 伊能図の刊行と波及

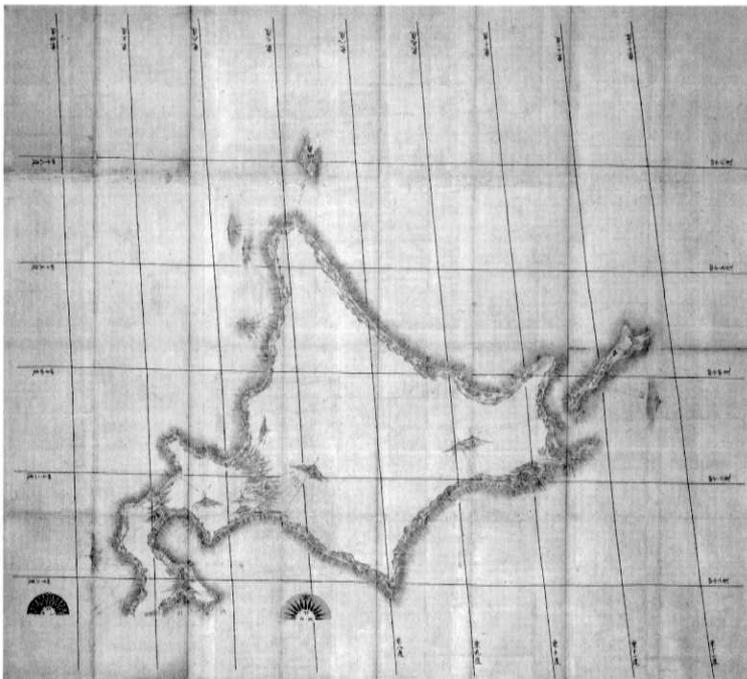
「大日本沿海輿地全図」は、文政4年(1821)に幕府に上呈された後、長く世間に知れわたることはありませんでした。世に広まるのは、約40年の歳月を経て、慶応2年(1866)に開成所から伊能図をもとにした図が刊行されてから以降のことです。以後、伊能図は近代日本図の原点として活用されました。

No.	資料名	作者など	時代	版種	寸法(cm)	備考
14.	官版実測日本地図	開成所	慶応2年(1866)	木版刷彩		池長
	(1) 北蝦夷				206.8×83.4	
	(2) 蝦夷諸島				157.1×220.0	
	(3) 畿内 東海 東山 北陸				227.6×157.2	
	(4) 山陰 山陽 南海 西海				194.4×141.5	
	伊能小図をもとにした刊行図。蝦夷諸島と北蝦夷は、最上徳内や松浦武四郎の探検成果によっている。					
15.	大日本沿海略図	勝義邦	慶応3年(1867)	木版刷彩	72.0×78.8	南波
	伊能図にもとづいた「日本・朝鮮近傍沿海図」から、勝海舟が翻訳出版したもの。					
16.	大日本沿海実測録(14冊)	伊能忠敬	明治3年(1870)	木版	各28.5×18.0	
	「大日本沿海輿地全図」とともに提出された調査記録『大日本沿海実測録』の刊行本。					
17.	大日本地図	川上寛	明治4年(1871)	銅版刷彩	154.7×142.0	南波
	伊能図をもとに、空白部分を他の資料で補った日本図。川上寛は、日本洋画界の草分けである川上冬崖。					
18.	大日本全図	木村信次・渋江信夫	明治10年(1877)	銅版刷彩	114.7×121.9	南波
	伊能図をもとに、陸軍参謀局が作製した日本図で、縮尺は1,160,000分の1。					
19.	大日本国全図	塚本明毅	明治14年(1881)	銅版刷彩	162.2×151.2	南波
	伊能図をもとに、内務省地理局の作製した日本図で、縮尺は864,000分の1。明治16年(1883)10月には補正がなされている。					

*備考欄の、南波は南波松太郎、秋岡は秋岡武次郎、池長は池長孟のそれぞれのコレクションである。記載がないのは当館の新規コレクション。



No.5 日本輿地図彙



No.10 伊能小図(蝦夷図)

◆次回展のお知らせ

特別展「メトロポリタン美術館 古代エジプト展—女王と女神」

平成26年(2014)10月13日[月・祝]～平成27年(2015)1月12日[月・祝]

 神戸市立博物館

〒650-0034 神戸市中央区京町24番地 TEL 078-391-0035
<http://www.city.kobe.lg.jp/culture/museum/>

神戸市広報印刷物登録/平成26年度167号(広報印刷物規格B-2類)

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。